



▲昨年の田原祭りの様子(田原福祉専門学校撮影)



広報サポーターだより 伝統の「田原祭り」の魅力を探る

こんにちは。広報サポーターの大坪未です。
 私は昨年の4月に、岐阜県の高山市から田原市に引越して来ました。約半年がたち、地域の人々の温かさや、すてきな場所、おいしい食べ物など、多くの良いところに出合ってきました。今回は、田原市の魅力の一つである「田原祭り」を、インタビューなどを通してご紹介します。

田原祭りについて インタビュー



▲祭りについて熱く語る鈴木正彦さん(写真左)

インタビューの前に

江戸時代から始まり、長い歴史を持つ田原祭り。昨年の9月に、私は田原福祉専門学校の「たづぐ組」の一員として、初めて田原祭りに参加しました。街中の熱気が迫力満点で、人々の団結力や華やかな山車がすばらしい祭りだと感じました。そこで、田原町にお住まいで祭り筋の鈴木正彦さん(菅町分銅組)に、祭りにかける意気込みや思いなどについてお伺いしました。

Q.1 どのくらいの期間、練習をするのですか？

▲二年中練習しています。祭りが終わっても、毎週一回のお囃子の練習をお盆まで行います。お盆が終わると、本番までは毎日練習していますよ。

Q.2 毎年どんな思いで祭りに臨んでいるのですか？

▲時代が変われども、世代が変われども、いつまでも引き継がれていくために、一番心がけているのは、まず自分たちが、心の底から楽しめる祭りになりたいということです。また、祭りを観るために多くの人が遠方や海外から訪れていますので、一緒に盛り上がり、楽しめる祭りづくりをしていきたいと思っています。

子どもの数が減ってきていますので、山車の引き手が足りないこともあります。他の町内から手伝いに来てくれる方もいて、とてもありがたいです。昔は、男性ばかりで神輿を担いでいましたが、今では女性も参加するようになり、祭りを華やかに盛り上げてくれています。